

J-37

冀望の群島

地中海における自給自足による難民の自立を促す提案

I hope archipelago

Proposal to encourage self-reliance of refugees by the self-sufficiency on the Mediterranean

佐藤信治¹, ○千葉雄介²*Sato Shinji¹ Chiba Yusuke²

Today, it is surging in Europe also of refugees thousands a day is seeking asylum and a better life. The refugees, UE Member States of financial problems, cultural destruction, social unrest has become a problem. Countries are trying to find a common countermeasure cooperation.

Also, refugee side, overcame a variety of risk, across the country, not accepted in many refugees any country, as well as accepted, there is a status quo that persecuted by discrimination.

In this plan, as well as create a base for new refugees, return the refugees or, it is planning to review the method to be settled in a third country nor a refuge in the motherland.

1. はじめに

今日、一日に何千人もの難民が庇護やより良い生活を求めてヨーロッパに押し寄せている。難民により、EU加盟国の財政問題、文化破壊、社会的不安が問題となっている。各国は連携し共通の対応策を見つけようとしている。また、難民側も、さまざまな危険を乗り越え、国を渡った、多くの難民はどの国にも受け入れられず、受け入れられたとしても、差別による迫害を受けるという現状がある。

本計画では、新たな難民の拠点をつくとともに、難民を帰還または、祖国でも避難先でもない第三国に定住させる方法を見直す計画である。

2. 計画背景

現在、中東やアフリカからヨーロッパを目指す難民や移民が過去にない規模で急増していて、ドイツやハンガリーなど一部の国が国境管理に踏み切るなど事態が深刻化している。難民がヨーロッパ訪れる最大の理由として、シリア近くで2011年から続くシリア内戦が挙げられる。

ヨーロッパで問題となっている難民とは、戦争や政治の混乱によって危険を感じ国籍国を出た人々のことである。欧州委員会によると2015年、ヨーロッパにいたる難民の合計が200万人に迫るという予測がでてい。EUが設置しようとしている受け入れ枠の16万人では足りないのが現状であり、多くの難民を受け入れる対策が必要とされる。

ヨーロッパ内部ではその対応に大きな差がでてい。難民受け入れに否定的な態度を示す国の主な理由としては経済的事情が挙げられる。また、多くの難民流入によって国内の文化が浸食されてしまうことを恐れ、受け入れを反対している。それぞれの国の文化を守り、経済を圧迫しない新たな対策が求められる。

難民問題はヨーロッパだけの問題ではない。世界中で5000万の難民が存在していると言われており、約世界の人口の100人に1人が難民である。もし、日本近国のアジア圏などで紛争や戦争が起きれば多くの難民が日本にも逃げてくることが考えられる。

3. 計画敷地

敷地選定条件として、さまざまな国を目的地とする難民が一同に集まる場とする。

欧州の最終目的地に因らず、難民が通る道は限られており、多くの難民が使うのは、トルコからギリシャ、マケドニア、セルビア、ハンガリーを経由する、陸の「バルカンルート」、アフリカ経由で地中海を渡り、スペインやポルトガルに向かう海の「地中海ルート」の

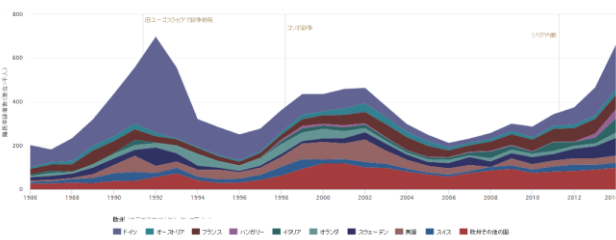


Table1, Refugees filings [1]出典

1 : 日大理工・専任講師・海洋建築工学科 Assistant Prof. of Oceanic Architecture & engineering, CST, Nihon-U, Dr. Eng

2 : 日大理工・学部・海洋建築工学科 Department of Oceanic Architecture & engineering, CST, Nihon-U

2 つである。中東やアフリカから欧州を目指す難民の密航路のうち、多くの死者、事故が相次いでいる「地中海ルート」上とする。

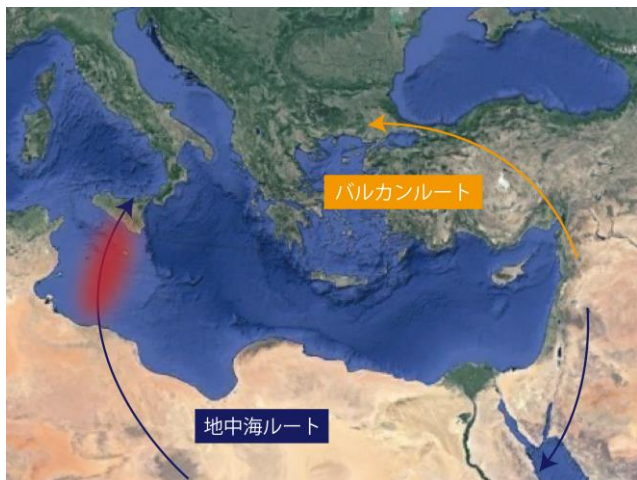


Figure1. Refugees route

4. 基本計画

本計画の建築物は難民の帰還、第三国を定め定住するまでの仮住居、それに伴った難民の自立を目的としたものである。

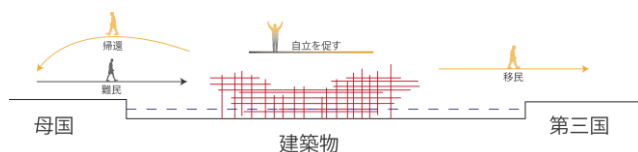
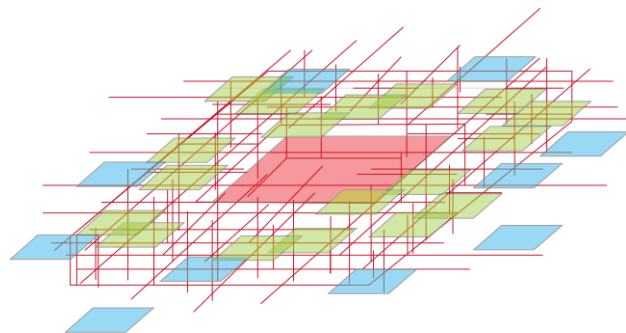


Figure2. Image view1

人々と文化が混じる部分を海上都市の中心エリアとし、そこから外に広がるように自給自足エリア、移住エリアとする



■ 中心エリア ■ 自給自足エリア ■ 移住エリア

Figure3. Image view2

5. 建築計画

多くの民族、文化が入り混じるであろうと考えられる。もともと持っていたそれぞれの文化を、壊す、無くなることのないような緩やかな人々の繋がりを提案する。

海上都市中心エリアは、地中海ルート上に核となる施設を置き、海上都市の中心に無宗教の祈りの空間をつくる。さまざまな民族が混ざり合うとともに都市のランドマークとなる。

自給自足エリアは、中心エリアの施設につながるように計画する。農場をつくることにより、難民が自給自足をするための手助けすることができるようにし、近隣国の経済的負担の軽減を目指す。また農場を利用した飲食の施設をいれる。

移住エリアは、2つのエリアに連結するような、可動式の浮体に難民の住める施設を入れ込む。繋いだり離したりできるようにすることで自然と住人の文化を守りつつ、緩やかに文化と文化が繋げることを可能にする。また、可動式にすることで海沿いの難民の多い地区などに一時的に難民キャンプ拠点として利用できるようになる。

海上を利用し、水路を利用した動線を都市全体に張り巡らせ、全体の繋がりをつくることで緩やかに都市をつなぐ。

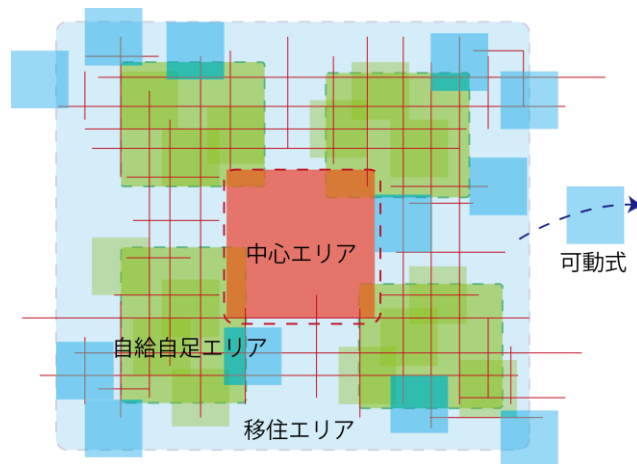


Figure4. Image view3

6. 参考文献

- [1] 欧州の難民問題、五つのグラフで分かりやすく解説 - SWI ...
- [2] 欧州の難民問題、六つのグラフで分かりやすく解説 - SWI ...
- [3] 急増するドイツへの難民 - ドイツニュースダイジェスト